第三節　八不中道

第一項　總述

第二項　八不の說明

第三項　中道の說明

第四項　四種釋義

第四節　眞如緣起

第五節　佛身佛土

第四章　三論の解題

中觀論の解題。百論の解題。十二門論の解題。

以　上

和裝美本、二百餘頁、定價金貳圓、東京市丙午出版社發行（原眞乘識）

華嚴學綱要

齋藤唯信師著

著者は京都帝國大學文學部講師兼眞宗大谷大學の教授で、眞に斯學の巨臂で、其の研究の該博なる其の著書の多數なる學界稀に見るの偉人である。本書は著者が先年東洋大學に於て華嚴を講述されし際の講案を基礎として之に訂正修補を加へられしものであつて、其内容の充實せるは推して知るべきである、今一言以つて之を蔽へば、佛內證の大覺の境地の直寫である難透難解の華嚴經の教理をば、最も平易に最も親切に而も徹底的に取纏めたもので之に加ふるに華嚴の略史、華嚴の本經、華嚴の教判、華嚴の實踐を以つてし、眞に「華嚴學綱要」の名と實と相伴ふたものである。

以下簡單に其の內容を紹介せんに、

第一編　華嚴の略史

第一章　緒言

第二章　印度

第一節　釋迦滅後華嚴の興起。第二節　華嚴經將來の疑ー

第三節　華嚴經弘布の概要

第三章　支那

第一節　華嚴の漸興時代。第二節　華嚴の立宗時代。第三節　華嚴の持續時代。第四節　華嚴の衰頽時代

第四章　日本

第一節　譯經及造寺。第二節　本末兩寺の傳。第三節　高辨と凝然。第四節　凝然以後の華嚴

第二編　華嚴の本經

第一章　華嚴の部類

第二章　能說の佛身

第三章　說時と說處

第四章　所入の三昧

第五章　本經の說相

第三編　華嚴の教判

第一章　五教十宗の教判

第一節　五教の名義。第二節　五教の所依。第三節　十宗の名義。第四節　十宗の所依

第二章　同別二教の教判

第一節　同別二教の名義。第二節　同別二教の本據

第三章　本末二教の教判

第一節　稱法の本教。第二節　逐機の末教

第四編　華嚴の教理

第一章　緒言

第二章　事理無礙

第一節　四重の關係。第二節　三種の異說

第三章　三性六義

第一節　相宗の三性。第二節　性宗の三性。第三節　六義の說明。第四節　眞如の二義。第五節　他依の二義

第四章　事事無礙

第一節　無礙の理由。第二節　時間的觀察。第三節　空間的觀察。第四節　無礙の喩示

第五章　十玄緣起（事事無礙の相）

第一節　十玄所依の體事。第二節　十玄緣起の說明。第三節　十玄緣起の次第。第四節　新古十玄の比對

第六章　緣起と性起

第一節　緣性二起の略辨。第二節　性起染淨の二說。第三節　右二說の批評

第七章　六相圓融

第一節　六相本據。第二節　六相說明

第五編　華嚴の實踐

第一章　所被の機性

第二章　實踐の階級

第三章　修行の時節

修行の身體

斷惑の分齊

觀行の方法

以上

和裝美本、二百二十餘頁、定價金貳圓五拾錢、東京市丙午出版會社發行（原頁乘誌）

彙報

京大文學部哲學科本年度卒業學生論文題目（△選科生）

○哲學專攻

Goethe に於ける Spinozismus　谷川徹三

カントに於ける道德律と自由の問題に就いて　日高第四郎

意識と對象　西村勝藏

カントの道德論に就いて　川畑思無邪

ヘーゲル論理學に於ける有無及び其他　吉田弘

ライプニッツの認識論及び形而上學一般（認識の本質を中心として）　立花勝

ショーペンハウエルの研究（主としてその倫理說）　遠藤貞吉

美的對象性の問題　赤松元通

メノン研究（前提的思想の哲學的研究）　△菊地慧一郎